

竜王中学校 学校関係者評価書

令和6年1月31日(水)

竜王中学校学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和5年1月29日(月)

出席者：(学校関係者評価委員) 千野 雄広 川口 優一 中嶋 正人 鷹野 秀樹
桂原 幸 渡邊 有志 伊藤 毅 早川 久美子
(学校側) 野本 真二 林 健一郎 窪田 昌彦

I 学校側から提案された内容

令和5年度職員自己評価書、令和5年度生徒アンケート集計結果、令和5年度保護者アンケート集計結果
(いずれもR4～R5を比較できるもの)

II 協議された主な内容

職員自己評価書及び生徒アンケート集計結果、保護者アンケート集計結果をもとに、学校の現状(成果と課題)や取り組み等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善にあたる。

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

自己評価、保護者アンケート、生徒アンケートのいずれにおいても肯定的な回答が多く、肯定的評価が昨年度より増加した項目も増えたことから、総合的に学校運営が改善されていることがうかがえる。

個別の項目を見ると、以下の成果が見て取れる。

- ・教職員の自己評価項目の多くが昨年度よりも改善したこと。
- ・学校からの情報発信や、学校開放の機会が増加した結果、「開かれた学校」に近づいていること。
- ・多くの質問項目において、職員・保護者・生徒の回答が同じ傾向にあり、三者が同じ課題意識を持っていると推察できること。
- ・あいさつを大事だと捉え、実践する傾向が昨年度よりも増加していること。

一方で、以下のような課題点が見られる。

- ・職員の多忙化が改善傾向にあるものの、なおも課題となっており、働き方改革が必要であること。
- ・子どもの家庭学習の時間や読書時間が減少し、スマホやタブレットに触れる時間が増加していることや、SNS等を介したトラブルが増加傾向にあることから、家庭での過ごし方について、課題点を保護者と共有し、改善を図る必要があること。
- ・授業が楽しい、わかると回答する生徒が減少傾向にあることから、職員の授業改善が必要であること。
- ・不登校生徒の数が減少していないことから、より一層、個に寄り添った教育が必要であること。

II 個別の項目に対する意見

家庭での過ごし方に対する意見

- ・スマホやタブレットの使用時間が増え、読書時間や家庭学習の時間が減少していることが指摘されているが、もう少し詳細を見る必要がある。例えば、子どもたちのスポーツ環境は、種目によっては夕方部の活動から夜のクラブチームでの活動に移行してきており、それが家庭での時間の過ごし方を圧迫している(読書時間や勉強の時間を取れなくしている)という可能性もあるし、スマホやタブレットで読書をしている可能性も考えられる。

読書活動についての意見

- ・ 中学時代の朝読書の習慣が、今も続いている卒業生がおり、とても素晴らしい取り組みだと言える。教室内に先生お勧めの本を置いておき、子どもが知らない分野の本に出会えるような取り組みも面白いかもしれない。

あいさつ活動に対する意見

- ・ 朝のあいさつ運動の様子を見ていると、校門で一礼し、大きな声であいさつする生徒が増え、素晴らしいと感じている。人間関係の第一歩はあいさつであるため、今後もあいさつを大切に生徒を育成してほしい。

いじめ、不登校に対する意見

- ・ 細かなアンケートや聞き取りにより、いじめが減少していることは素晴らしい。一方で、不登校生徒が全国的にも増加傾向にあることを憂慮している。学びの場も多様化させていく中で、個々の生徒の事情に寄り添った、個別の指導を今後も進めてほしい。

表現活動についての意見

- ・ 「字をていねいに書く」「人前で自分の意見を言う」ことができなくなっていることが指摘されている。世の中自体がICT化に力を入れる中、字を書く機会は今後減少していくのかもしれないが本校独自の特色ある取り組みとして、「文字や文を書く」ことを目的とした行事を取り入れてみるのも面白い。
- ・ 「社会を明るくする運動」の代表作文を見ても、本校生徒の作文力が低いとは考えていない。良い指導を継続してほしい。
- ・ ICT機器は、情報を得るには便利なツールだが、意思を伝えるツールとしては、不十分な場合がある。口で（言葉を発して）伝える教育を大切にしてほしい。

その他の意見

- ・ 昔よりも生徒は格段に良くなっている。保護司による出前授業を聞く真剣な態度や、授業後の感想文の内容から、竜中生の質が良くなっていることがよくわかる。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

多様性に寄り添った教育の展開を

- ・ 世の中自体が、多様性を受け入れる時代にシフトしている。大きな声であいさつをすることが苦手な子、字を書くことが苦手な子、勉強が苦手な子など、子どもは多様な特性を持っている。「竜中生として、こうあるべきだ」という型にはめずに、まずは子どもの個性を広く受け入れた上で、一人ひとりに寄り添った教育活動を行ってほしい。

相反する価値観もバランスよく取り入れた教育を

- ・ 高校ではパソコンでレポートを作成し、ネットを介して提出することが普通になっている。世の中の流れはICT機器活用が主流に傾いているが、手書きの温かさや良さも認めつつ、両方をバランスよく実施するハイブリッドな教育を進めてほしい。
- ・ 教員の働き方改革も大事だが、その結果、保護者の負担が増えることにならないよう、考慮してほしい。お互いに手を差し伸べあって、少しずつ手を貸しあうことで、皆が幸せになれるような改革を進めてほしい。

記載責任者 (竜王中学校学校関係者評価委員長)

氏名： 千野 雄広

